

この公園なんですけれども、もう集約しないといけない場所もあれば、身近に公園がなくて困っているという場所もあります。子供にとっては生活の中での遊び場ということとても必要です。利用できる公園がないところ、子供の遊具のない公園など、そういったところを子育て支援を重視するということから、ぜひ優先的に整備をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（林 久光君） 廣中土木建築部長。

○土木建築部長（廣中伸孝君） 本市で策定いたしました管理活用計画では22地区ございまして、その身近な地区公園につきまして、一地区一公園として再編整備をしていこうという計画となっております。このやり方につきましては、地区の住民の方の意向が最優先だろうということで、地区の方と話し合いをしながら進めていきたいと考えております。そういった地区に公園がないというような箇所も一部にはありますけれども、代替施設が近くにあったりいたしますので、そういったことも勘案しながら、話し合いを通じて絞っていきたいというふうに考えます。

○議長（林 久光君） 長坂議員。

○1番（長坂実子君） ぜひお願いします。

最後になりますけれども、子育て世代の人口減少をとめるためには、子育て支援としての公園を整備することがすごく重要だと思います。子育て世代が住み続けたいと思えるように、そういった子育ての魅力を感じるような関係づくりにぜひ力を入れてください。お願いいたします。

○議長（林 久光君） 回答はよろしいですか。

以上で、1番 長坂議員の一般質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

ちょっと時間が中途半端になりましたので、ここで1時間ほど休憩をとりまして、12時30分から始めたいと思います。よろしく願いいたします。

（休憩 11時31分）

（再開 12時30分）

○議長（林 久光君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

14番 胡子雅信議員。

○14番（胡子雅信君） 皆さん、こんにちは。14番議員、立風会の胡子雅信でございます。傍聴にお越しの皆様、ありがとうございます。通告に従いまして、2項目の質問をしたいと思います。

まず初めに、観光振興と公共交通についてでございます。

平成27年3月に策定した第2次江田島市総合計画では、まちづくりを進める上での基本戦略として、市民満足度の高いまちづくりと未来を切り開くまちづくりを2つの戦略として位置づけております。

この戦略のうち、未来を切り開くまちづくりにおいては、新たな人の流れや経済活動をつくり出す方向性を示し、広島湾地域の発展に貢献する海生交流都市江田島を目指すため、絵になる島、楽しめる島、自慢できる島、また来たい島という4つの方向に沿った政策を展開することが示されております。

この未来を切り開くまちづくりという戦略の数値目標として、新たな人の流れをつくり出すという観点から、人の流れを示す最も一般的な指標である総観光客数で設定され、計画期間最終年度の平成36年度に総観光客数の目標数値を100万人としました。中間年となる来年度、つまり平成31年度の目標数値は、ピーク時の平成17年の総観光客数70万人の回復を目指しており、市の推計によると、平成29年には63万3,000人まで回復しており、もう一息のところまで来ております。

観光と公共交通は密接に関連しており、さらなる総観光客数増加を目指すために、1番目としまして、情報発信について、2番目として、公共交通の利便性について、3番目として、インバウンド観光客の受け入れについて、4番目として、広島、呉、宮島との連携について、今後の方向性を伺います。

次に、指定管理施設の運営状況についてございます。

今年度、指定管理者制度導入施設のモニタリングについて、制度設計に着手し、2月8日の全員協議会においては、これまでの中町一丁目航路の交通船に続いて、海辺の新鮮市場のモニタリングを開始するとのことでありました。その他の施設について、モニタリングの開始時期及び結果公表についてお伺いいたします。

以上のことについて、市長の答弁をお願いいたします。

○議長（林久光君） 答弁を許します。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 胡子議員から、2項目5点の御質問をいただきました。順にお答えをさせていただきます。

初めに、1項目めの観光振興と公共交通についてお答えさせていただきます。

1点目の情報発信についてでございます。

本市のさらなる総観光客数の増加に向けましては、江田島市の魅力を市内外に対しまして、効率的、効果的に情報発信をしていく必要がございます。午前中、重長議員にお答えしました内容と重なりますが、今年度、平成30年度には、観光戦略チーム「一歩」の分科会によります観光ガイドブックと観光ガイドマップの企画編集や、ノベルティーグッズのデザイン作製を行っております。広島市や呉市を中心に宿泊施設や飲食店などで配布をするとともに、観光ガイドブックの発刊記念イベントを広島市本通りの商業施設、広島パルコ前で来週の3月20日に実施することとしております。

また、分科会の1つに戦略的な広報の検討の実施、PRイベント等の開催を検討いたしますプロモーションチームがございます。この分科会チームからは、SNSやインスタが身近となった今日、市民の皆様が本市の日常をおさめた動画や、観光客の方がみずから本市の体験メニューを実体験する動画等を制作・編集をいたします参加型のプロモーション事業の提案がございます。新年度、平成31年度におきましては、これらの事業提案の実現に向けて支援を行い、積極的に本市の情報を発信してまいります。

次に、2点目の公共交通の利便性についてでございます。

観光と公共交通は密接に関係しております。本市では、平成29年3月に策定をいたしました江田島市観光振興計画におきまして、観光の魅力や課題を整理しており、その中で島内の公共交通機関が少ないということが課題として上げられております。また、

総観光客数増加を目指すためには、公共交通の利便性向上のための取り組みが必要であると考えております。そのため、船やバス、タクシー等の交通事業者の方との連携の上、利用者の皆様の利便性向上のための取り組みを進めてまいります。また、現在、江田島市観光協会では実施しておりますレンタサイクル事業の充実や、本市に適した島内交通のあり方につきまして考えてまいります。

次に、3点目のインバウンド観光客の受け入れについてでございます。

昨年、平成30年の全国の訪日外国人旅行者数が年間3,000万人を超え、過去最高を更新いたしました。県内におきましても、広島市の平和記念公園や廿日市市の宮島で多くの外国人観光客を目にいたします。

一方で、平成29年の本市の観光入り込み客数の統計調査における外国人観光客数は年間で1,490人で、総観光客数63万人に占める割合はわずか0.2%となっております。残念ながら本市は全国的なインバウンドの波に乗りおけているのが実情でございます。

今後、他市町との連携によります観光PR活動を推進するとともに、インバウンド客のニーズの把握に努め、本市の特徴を生かしたカヌーやSUPなどのマリトレジャーなど、コンテンツ開発等を関係団体とともに進めてまいります。

次に、4点目、広島、呉、宮島との連携についてでございます。

御存じのとおり本市は、広島、呉、宮島の真ん中に位置しており、他の地域にはない非常に有利な地理的条件を有しております。この有利な地理的条件を生かすため、観光振興計画の具体的方策に掲げております事業の1つに、広島、宮島、呉と連携した観光客誘致プロジェクトがございます。その取り組みの1つといたしまして、昨年の8月、広島、江田島、宮島を直通で運行するチャーター船を利用し、海上自衛隊第一術科学校の棧橋に帰港をいたします特別感のあるモニターツアーを開催いたしましたところ、30人の定員が満席でございました。今後も関係市町や観光協会等と連携した取り組みを行ってまいります。

続きまして、2項目めの指定管理施設の運営状況でございます。

本市におきましては、指定管理者制度におけるモニタリングにつきましては、交通船事業を除き導入を行っておりませんでした。しかしながら、公の施設の効果的、効率的な運用を図るために、昨年、平成30年12月に江田島市指定管理者モニタリングマニュアルを策定いたしました。これによりまして、新規の指定管理及び現在の協定の更新時からモニタリングを実施することとしているところでございます。

先月、2月末現在の指定管理施設数につきましては117施設で、漁業用作業保管施設など特定の事業者の方の利用に限定される施設は除きました8施設をモニタリングの対象とする方針でございます。このうち、ことし1月からの指定となりました海辺の新鮮市場や、追加議案といたしまして提出しておりますサンビーチおきみにつきましては、モニタリングを実施することとしております。その他の施設につきましては、モニタリングの実施に指定管理者との協定変更を伴いますことから、おおむね現在の指定期間の終了でございます平成33年度の更新時からの実施を予定しております。また、モニタリング結果につきましては、評価結果を取りまとめた後、ホームページ等を通じまして

公表することとしております。今後ともモニタリングの実施によります指定管理者の点検、評価を行い、よりよい市民サービスの向上と適切な施設運営の実施に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） ただいま市長のほうから答弁をいただいております。これから一つ一つ再質問をさせていただきたいと思っております。

まず、観光振興と公共交通についてでございます。

先ほど4点ほどのところにおきまして質問をさせてもらっておりますけれども、この4点が時としてはリンクするところもあるので、もしかしたら情報発信のところでも外国人のことも言うこともありますけれども、その点のことにつきましては、御容赦いただきたいというふうに思います。

まず初めに、情報発信でございます。

先ほど市長の御答弁の中で、午前中の重長議員の質問のところとお話されたこと、こういったところを、今ちょうど「一步」が、まさしくきょうプレスリリースということで、観光ガイドをつくられたと、これはほんとにすばらしいものであると思います。

そこで、午前中の質問にあります反省点の中での情報発信というところでもあります。もちろん戦略チーム「一步」に参加された方々が個別にSNS、フェイスブックとか、ツイッター等々での情報発信をされているということですが、今、江田島市は市役所としまして、公式アカウントでのフェイスブックでいろいろと行政情報であるとか、イベント情報というものが流れているのは私も承知しているところではありますけれども、一方、観光という部分におきましては、地域のイベントを外に知っていただくということが非常に重要であるということになります。そうすると、江田島市の今の公式アカウントでいくと、なかなか全てのいろいろな行政情報がありますので、そこに特化したフェイスブックのアカウントを設置すべきだと思いますけれども、この点につきまして、まずは答弁いただきたいというふうに思います。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 情報発信としまして、いろいろなパターンがあると思います。行政がやるべきところ、もしくは観光協会がやるどころ、商工会でやるべきところというふうにありますので、地域の特に祭礼とか、どっかの花見会があるとかいうのは、その情報をどちらかに提供していただいてやっていただきたいと思うんですよ。特に今、観光協会のほうに情報発信についてはお願いしたいというふうに思っておりますので、そちらのほうに情報提供をしていただくようお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） そこで、そのフェイスブック、確かにイベント系といくと観光協会ということにはなると思うんですけれども、今、観光振興計画の中でこういった「一步」、この事業をやっていく中で3つの団体がリンクしていると思うんですね。江田島市商工会、そして観光協会、そして江田島市、こういったところが1つの核となる

団体でございます。そういった意味で、戦略チーム「一步」の3団体は、いわゆるこれはDMO、観光地マネジメントマーケティング組織ということでよろしいのでしょうか。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） DMOとかいうて横文字になったらわかりにくいんですけど、「一步」としては、あくまでも江田島のことを知っていただいて、そして江田島のよさいうものを発信していく。そして、そのためにいろんなメニュー、コンテンツを開発していきたい、そういうことを考えますと、DMOに近いというふうに思います。以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。この計画書をつくるときに私も意見を出したときに、DMO的なものか聞くと、市の考え方としてはDMOのようなものであったので、今も産業部のほうでそのような認識をちゃんと持っているかどうか、その確認をさせていただきました。

先ほど、観光協会から情報発信ということでございますが、今、観光協会も人的組織、そして人、もの、金という部分で支援していかなくちゃいけないというふうな状況になると思うんですけども、この点について、産業部長、どのようにお考えか教えてください。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 観光協会においてはいろいろな状況がありまして、事務局長の体調不良とか、いろいろ中のほう安定しないところになっております。来年度ぐらいからはしっかりと市のほうもバックアップして、地についたような形の観光協会、観光協会の1つの方向性として、一般社団法人化というのも目指しておりますので、そこらでこ入れしていきたい。これは市のほうの長年の思いです。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ぜひとも、今、この観光とは、まさしく産業、そして人の働きの場所をつくるという、ほんとに今、江田島市にとっても重要な事業の中に入ってきますので、ぜひ核となる観光協会のバックアップをしていただければなど。それと、あとは、一般的な大きな行事、イベントはあるんですけども、やはり今、江田島の市民の方々、皆さん御存じだと思いますけれども、いろいろな団体がいろんなところでイベントをしています。こういったところを近隣の市町に情報発信することによって、これで誘致、いわゆる近隣の市民の皆様方、昨日は登地議員が言いましたけれども、この広島湾を中心にした約200万人、この方々に江田島おもしろいぞというふうないろんなイベントを発信できるような、そういった工夫を今後していただければなどというふうに思います。

それと、あと、きょういただきましたガイドブックでございます。一方で、江田島市も2つの大きな広域連携の一員でございます。1つが、広島市を中心とした広島広域都市圏でございます。こちらは、イベント情報紙として「リーぶら」というのがあります。今、これ市民センターの下にも置いてますけれども、こういったものがございます。一方

で、呉市を中心とした連携の中に一員としてありまして、これは広島中央地域連携中枢都市圏でございます。こちらの情報紙が今、「海陽彩都プラス」というふうになっております。以前は呉地方拠点都市地域推進協議会ということで、合併前の江能4町であるとか、音戸・倉橋、呉市を中心として、こういったもので海陽彩都というものを発行しており、今まさしく連携都市圏になったことによってプラスということで、東広島とか竹原、海田とか熊野、坂町、こういった情報も入ってんです。そういった意味で、こちら辺のところを見ていただければわかると思うんですけども、広島を中心としたものは24市町なんです。一方で、呉を中心としたものについては8なんです。4町4市なんです。それだと江田島の情報が非常に少なくなってくるわけなんです。そういった意味で、今はインターネットによる情報発信も確かに必要でございますけども、一方、紙媒体、こういった江田島市の春、夏、秋、冬という、そういった部分のフリーペーパーというものをつくれないうか、このことについて、産業部長のほうにお答えいただければなど。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 議員さんが言われるように、広域連携上、各冊子、ペーパーものを出されているということは確認させていただきました。確かに江田島の部分がどんどん、そうなるとう小さいよ、情報の発信の方法もペーパーいうのも、SNS以外を活用される人以外もいるわけだからということでありますけれど、まだそこまで行っていないんですよ。情報発信のほうは観光協会もありますので、その辺とあわせて、どうしていくかを今後考えさせていただきます。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。きょういただいたこの冊子でございますが、非常に写真もよくて、そして見ばえもいい。また、市長みずから3月20日のパルコ広島前のイベントに行かれて、江田島市をPRしていただくと。これ、ほんとに広島市民っていうか、いただく方は一家に1冊というぐらい、江田島が盛りだくさんの満杯だと思うんです。ただ、地域のイベント情報というのがないものですから、確かにフェイスブックを発信することも重要ですし、また、紙媒体で最寄りの広島市内、呉市内、もしくはもうちょっと広域なところの公共施設とかにそういったものがあれば、一目見るだけで、ちょっとじゃあ4月何日、この江田島のイベントに行ってみようじゃないとか、例えば観桜会っていうのもありますよね。そういった季節季節のイベントで江田島ならではのイベントがあるんで、ぜひそういった情報のフリーペーパーいうんですかね、こういったものをまた来年度以降の「一歩」の中で、いろいろ検討の材料の1つとして考えていただければなというふうに思います。

続きまして、公共交通の利便性についてでございます。

今、江田島市を訪れる方々は、ほぼ自家用車が大半でございますが、一方で船舶を利用した観光客もおられます。平成29年では、約5万人の観光客が船舶を利用しているという推計が出ております。

ここで、今、宮島航路、宮島口から宮島、また呉、広島と松山につながる航路といっ

Wifi



WiFi

たところに、船の中に無料公衆無線LANサービス、いわゆるWi-Fiが利用できる船舶が今動いているわけなんです。そういった中で、例えば江田島市を発着する船舶にも、こういった旅行者だけじゃなくて、これは江田島市民にとっても多分使い勝手がいいと思うんですけども、Wi-Fiの利用できることができないかというふうに思うんですけども、このことについて御答弁いただければと思います。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷孝行君） 今、江田島市内には5カ所、Wi-Fiついております。航路につける場合には、現在、航路事業者との協議も必要になってきます。つける場合には交通魅力アップ事業などの補助金制度もございますので、航路事業者の方と協議を行った上で考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ぜひ航路事業者さんと協議し、また、もちろん今、江田島市が所有する船、中町と宇品航路3隻ありますけども、こういったところは市の所有船舶でございますので、やはり江田島市として公共交通の利便性の向上という意味で、まずは率先して市営船につけるといいうのも1つの手であると思っておりますけども、この点についていかがでしょうか。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷孝行君） そうですね。市営船につきましては、江田島市、市のほう側が主導権を持ってつけていけると思っております。しかし、航路事業者との協議は必要でございますので、それを踏まえた上で判断していきたいと思っております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。一応、今、航路事業者さん、瀬戸内シーラインさんでございますが、瀬戸内シーラインさんというか、親会社瀬戸内海汽船さんですけども、そちらのほうは松山行きのフェリーであるとか、スーパージェットにもそういったものをつけられているので、理解はあると思っております。

それと、今、江田島市、5カ所あります。これは陸地部でございますが、棧橋とあとはふるさと交流館ですかね。そこもあるんですけども、いわゆるあそこはHIROSHIMA FREE Wi-Fi、ひろフリというものを利用されていると思っております。そちらのほうをインターネット上調べていくと、実はシーラインの広島から宇品の高速艇もついているのが書いてあります。そういった意味では、瀬戸内シーラインさんもそこら辺のところの御理解はあるのかなと思っておりますので、協議をしていただければなというふうに思います。

それと、あとは将来的なことでございますけれども、江田島市は広島湾に浮かぶ島でございます。広島、宮島、呉を訪れる観光客をいかに誘致していくかということが大きな課題となっております。今、能美海上ロッジにかわる新しいホテルの建設整備事業というものもあります。そういった意味で、将来的に宮島から直接中町、こういったところに航路が持てないかというふうに考えておりますけども、来年度、市営船のいわゆ

る次の指定管理のところでの検討をされる予定になっておりますので、こういったところも含めて、専門家にお話をいただくということはどうでしょうか。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷孝行君） 宮島からの船ですね。専門家の方にお話を聞くっていうことは、とてもいいことだと思います。ただ、この交通航路、生活航路ではございませんので、もしそういったことを考える場合に御相談いただければ、交通事業者との協議のセットなど、御協力のほうは十分いたします。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） 今、私が申し上げているのは、江田島市、最終的にどうか、平成36年度には100万人の総観光客数という中で、やはり今、広島、宮島、そういったところが非常に脚光を浴びております。やはり江田島に来ていただくための輸送、海上交通というのが、一番江田島に来ていただきやすいようなところがあります。先般、3月2日ですけども、大柿高校の魅力化を情報発信していただいている方が、大柿高校としての学生がやっていることをフェイスブックで今アップしておるんですけども、こちらの中で、3月2日に2019高校生ビジネスプラン・コンテスト in 広島というのがありまして、大柿高校の2年生の生徒が江田島でよふかしというプレゼンテーションをしてるんです。女の子だったんですけども、彼女たちが旅行プランをやるんですけども、江田島には何もないという話のマイナスなところも言うんですが、一方で、広島湾のど真ん中、そして宮島から近い、そういったところもあって、その旅行プランというのが、日中は宮島で存分に楽しんでくださいと。そして、宮島から船に乗って、江田島へ約30分ですと。その後、宮島にはない江田島にあるものがあると。夕日なんです。宮島からは夕日が見えません。そういった意味では、こういった高校生のアイデアの中にも宮島から直接江田島に来る船、こういった旅行プランを考えている学生さんたちがいるということなんです。そういった意味ではぜひ、これはまだ今すぐとは言いません。中町にせつかく宿泊施設がこれから建とうとするわけなんです。多分2年後にはなと思うんですけども、そこに向けてぜひ、そういった観光ルートの一つというか、もちろんこれは観光に特化する交通かもしれませんけども、ここはぜひチャンスだと思いますので、ぜひ検討をしていただければなというふうに思います。

続きまして、陸上交通のところに行きたいと思うんですね。

皆さん御記憶にあると思うんですけども、平成27年に観光振興を図るために、観光協会、そして市内タクシー会社7社及び宇品海運が観光タクシー事業という社会実験をしたわけでございます。1年かけて利用者数や訪問先を調べ、観光コース設定や他の公共交通機関との連携が可能かどうか検討するというものでありますけども、このことにつきまして、江田島市のほうは検証結果というのは把握されているのかどうか、この点についてお聞かせください。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 議員さんが言われる27年度に江田島市の中で、先ほど言われた3社で観光タクシーの取り組みをやっております。これは現在も取り組んどっ

て、実証ではなくて、現在も宇品海運のほうでは窓口があるみたいなんですよ。利用は、ことしは特にあれなんですけれども、あんまり芳しくないというのが実態でございます。というのは、時間制で大体2時間とか2時間半いうことでセットされとるらしいんですけど、見に行くところの点が離れとって、移動時間ばかりじゃないかということで、何となく割高感があるということで、なかなか御利用が進まないということになっております。ですから、今後、島内周遊については何らかのことを進めていかないけんのじゃないかと、観光サイドでは思っております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。今も続いているということで、ただ、利用状況としては確かに高いんでしょう。3時間が当時の記録でいくと1万3,560円、2時間半で1万1,300円、これ4人乗りですよ。2時間が9,040円、そういったところにあるのかなというふうに思います。

一方で、やはり陸上交通の利便性ですよ。自動車で来る方々は自分たちで移動することは可能ですけれども、特に広島近くではなくて、例えば関東とか、要は関西とか、そういったところは江田島に来るにはどうしても船舶になると思いますが、そこで今、確かに江田島市の観光協会がレンタサイクルされてかなり長くなり、また認知されていると思うんですけども、一方、今、広島市のほうでは、いわゆるシェアサイクルということで、ぴーすくるっていうレンタル自転車をやっております。こういったのをまた広島からさらに海を越えた江田島市内に整備できたらいいなというふうに私個人的に思ったんですけども、このことについて、今後そういった展開ができないものかどうか、そこら辺のところについて教えていただきたいなというふうに思います。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） ぴーすくるというサイクルシェアの話ですけど、本市としましても、平成28年度に一応考えてます。そのときの導入費用は20台をレンタルした場合、月33万円、あとは運營業務とかで簡単な修理とかはあれなんですけれども、修理等はその他別途またかかるということで、運営経費がかかり過ぎるのではないかとということで、一旦ちょっとお休みをしてます。休んどるといふか、考えるのがとまりました。観光協会のほうのレンタサイクルのほうを、先ほど言いました一般社団法人化に向けて1つの財源の確保ということで進めておりますので、そちらのほうで対応していく。自転車のほうも電動アシスト自転車のほうに大分シフトしておりますので、それがかわるべきものになっていくと、このように考えております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ほんとに今、これからまた暖かくなって、江田島の海を見ながらのサイクルといふか、自転車でのツーリングというのは非常に魅力的なコンテンツであると思いますので、またいろいろレンタサイクルの運営についても今後また検討を、どうやれば利用者がふえるかとか、こういったところを検討、研究していただきたいなというふうに思います。

それと観光振興計画、この「一步」におきまして、観光客がいわゆる陸上交通の不便さという中で、検討材料の中で、観光客が利用しやすいレンタカーサービスというふうなところも検討するというふうに盛り込まれてはおります。例えば今、もう御存じと思うんですけども、大崎上島町が超小型モビリティというので、2人乗りの電気自動車、こちら5台を導入しまして、民間会社に運行委託しているというふうな実例がありまして、これは観光だけでなく環境にも優しいというのもあって、1つ、江田島市により目玉、呼び込む目玉として、何かこういう電気自動車のレンタカーサービスを導入できないものかどうかというふうに思っておるんですけども、この点についてどうでしょうかね。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 乗り物に関しては、確かにいろいろなパターンがあると思うんですよ。今度は電気自動車とかそういう類いを入れたら、どうしてもメンテの関係が出てくるんですよ。島内業者の方にそのメンテをしていただくかどうか、できるかどうか、その辺もありますので、その辺しっかり検討させていただきたい。その結果、導入するかしないかを決めさせていただきたい、このように思います。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。この陸上交通の利便性ということは、ほんとに今、課題中の課題でございますし、いつかは私も江田島バス、こちらのほうの例えば循環型のバスですよ。例えば江田島市役所を起点とすれば、時計回りの中町港まで行って、またゆめタウン行って、また江田島市役所という時計回り、その逆の反時計回り、循環型ですよ。山手線の外回り、内回りみたいなものです。これを一律金額のバス料金に設定すれば観光客も利用しやすいし、一方で江田島市の高齢者の方々がそのバスを使いながら、その周辺には病院もあつたりとか、ショッピング街もあつたりとか、あとは温泉施設もあつたりということもあって、お年寄りの方々が外に出て、いろんな人と会話するというツールとしてはおもしろいかなというのがあります。そういった意味では来年度、質問というよりかはお願いしたいなということで、利用者にも市民にも使い勝手のいいバス路線ということも含めて、来年度には運行に詳しい、これはもちろんICカード導入に向けてのサポートということで、人員増の補助金を江田島バスに支給するという、予算案に盛り込まれておりますので、この点も踏まえて専門家に検討していただくということはどうかなと思うんですけども、そこを企画部長、教えていただければと思います。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷孝行君） 来年度、専門家の方も江田島市に入っただいて、そういった観光路線も含めた、もちろん生活路線を優先いたしますけども、観光路線を含めた路線の構築をまた考えていただきます。もちろんおっしゃったように、ICカードも導入していこうというふうに思っております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ぜひお願いしたいと思います。

続いて、インバウンド観光客の受け入れについてでございます。

先ほどの市長の御答弁の中で、平成29年の段階では外国人の旅行客というのは推計で1,000人ということで、恐らくこれはまた港周辺であるとか、バス路線、こういったところにも多言語化の案内というものが必要になってくると思いますが、実際ちょっとお聞きしたいんですけども、江田島市の推計の中の外国人というのはどのようにカウントされてるのかとかわからないので、ぜひ教えていただければなというふうに思います。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 捉えるところが施設利用の関係で、青年の家とか、そちらのほうの数字です。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。これから江田島市も先ほど市長答弁の中で、平成29年における総観光客数の中での割合、外国人の旅行客の割合が0.2%ということで、やっぱり今後ふやしていかないといけないということでありました。先ほどの統計でございますけども、これ、平成29年は1,000人なんです。ただ、これ、県が江田島市から推計を受けて統計を出しているわけなんですけども、平成18年まではゼロ人だったところが、平成19年に8,000人、平成20年には1万2,000人の外国人の方が来ているというふうな推計にもなっているので、これは実際どこの数字を県のほうに報告しているのかなというところがありますが、こら辺のところはまた別の機会のときに教えていただければなというふうに思います。

ちなみに今、江田島市として、外国人、いわゆるインバウンド観光客、こういった国の方々をターゲットにしているかというところでございますが、こら辺のところを教えてくださいなというふうに思います。

○議長（林 久光君） 長原産業部長。

○産業部長（長原和哉君） 江田島市の方針というのは、特にこの人らをいうことには限定しておりません。ただ、広島県のほうに来客するということは、例えば広島県の観光関係の資料によりますとインバウンド客は、大体広島県、28年のときだったら2.9%だったんですが、34年には600万人ぐらい来られる予定、8%にしていこうとかいうような計画もあるんですよ。そこを広島県としては、恐らくヨーロッパとかアメリカ、オーストラリアの方を中心と考えとって、宮島と平和公園ということになっておりました。ですが、今後、東南アジアのほうの富裕層の方、旅客機の就航等も進めておりますので、そちらのほうもふやしていこうということになっていると思います。本市としましても、広島県のインバウンドに沿ったような感じで、対象者としてインバウンド客の誘致を進めていきたい、このように思っております。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。まずはこれから検討していかなければいけ

ないと思いますし、確かに県の統計でいくと、江田島市がターゲットとできる外国人の旅行者というのは、やはり広島と宮島に来られる方々、この方々をいかに江田島市に来ていただくかというふうな流れになってくると思います。確かに広島と宮島に来ているアメリカ人の方は25万人います。カナダが3万8,000人。一方、すみません。これは欧米系といいますか、一方注目したいところがありまして、これがアジア系なんですよね。中国もふえてますし、フィリピン、インドネシア、こういったところが県の統計に出ております。

そういったことで皆さん考えていただきたいんですけども、今、江田島市には外国人市民の方々がいらっしゃって、その方々というのは、一番多いのはベトナムでございます。次に多いのがフィリピン、そしてその次が中国、そしてインドネシアということでございます。そういった意味では、そういった方々、今、江田島市民としていらっしゃる。先ほどの情報発信じゃないですけども、フェイスブックであるとか、インスタグラムというところで、今住んでいらっしゃる江田島市民の外国人の方々が江田島市のいわゆるインスタ映えするような写真をアップすることによって、彼らの友達や母国にいますから、もしくは日本の中のどこかのまちにいます。そういった方々に、江田島おもしろいぞってという情報発信の仕方っていうのは、これは非常にいいのではないかと。なおかつ、その方々がいるっていうことは、言葉の問題も何とかなるんじゃないかと。そういったところでは、今、市民生活部長と目が合ったんですけども、昨年12月に江田島市国際交流協会というのができまして、そういったところに外国人の方々とこれから交流していこうと部分があるんですね。観光という部分でも外国人の方々に御協力いただきたいなというふうに思うんですけども、いかがでしょうかね。そのネットワークづくりということでですね。

○議長（林 久光君） 山井市民生活部長。

○市民生活部長（山井法男君） 議員おっしゃるとおり、今、江田島市内に700人の外国人の方いらっしゃいます。ただ、その半数以上は技能実習生の方々で、お仕事で来ているということで、日々忙しくて、休みも日曜日ぐらいしかないという状況がありますので、私の中で直ちにそれが観光に結びつくことは考えられなかったんですけども、観光協会もできました。そういったところで、官民一体でその外国人との交流を進めていくという体制が整いましたので、観光も含めたことで、観光といいますか、インバウンドにもそれが発展していけるような形で、将来考えていきたいと考えております。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。実際、私も外国人の技能実習生の方々とフェイスブックでつながっているベトナムの方もいます。そしてインドネシアの方もいます。ベトナムの方は、実はことし雪が降りましたのですよね。1月でしたかね。雪が降っている光景をベトナムの方が動画に映して、それをフェイスブックでアップしているんです。やっぱりその中でコメント見ていると、ベトナム語ではありますけども、翻訳機能がありますので、やっぱり雪のことについて、わあっとネットの中で会話しているわけなんですよ。一方でインドネシアの方々、これは四、五人が、これは江田島じゃ

なくて、広島市に遊びに行ってるんですけども、平和公園の中の前爆ドームの写真とか、そしてあとはドラゴンボールの何かフィギュアみたいなものがあるんですけども、そこに立って写真写っているのもアップしているんですよ。ということは、これ、インドネシアの国に住んでいる友達にもそういった情報が行くわけなんです。そういう意味ではぜひ、今すぐには難しいかもしれませんが、来年度4月にいよいよ国際交流協会も本格スタートするというので、ここら辺もいわゆる外国人の市民のための交流の場の協会だけでなく、そういった観光、いわゆる横の連携で江田島市を盛り上げていただくようお願いできればなというふうに思いました。

続いて、先ほど交通のところでも触れましたけども、船舶のことで、江田島市内のWi-Fiスポットが、いわゆるひろフリがカバーしても5つなんですけども、これをもっとふやしていくっていうことは御検討できなかつたということなんですけども、この点について、いかがでございますか。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷孝行君） もちろんふやすということを検討しないことはございませんので、要望ございましたら検討してまいります。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。それと、今、観光に特化しているとは思いますが、今、総務省が2020年までに公衆無線LAN、いわゆるWi-Fiの環境整備ということで、いろいろ補助メニューをつけられていたんです。この中で、例えば安芸高田市は環境整備支援事業ということで、8カ所設置しております。また、北広島町、こちらが防災情報ステーション等の整備事業ということで、Wi-Fiがある場所が59カ所あるんですよ。一方で、大崎上島町、こちらのほう、公衆無線LAN環境整備支援事業ということで、国の補助金をいただきながら、13カ所を整備したということがございます。これから観光についてもWi-Fiが必要でございますし、一方で防災のときにはWi-Fiのある場所で連絡をするということも必要になってきますので、これは防災と観光という両面を向けて、Wi-Fiの受信できる場所をふやしていきたいと。もちろん今、江田島市が管理しているひろフリの5カ所以外にはコンビニですよ。セブンイレブンであるとか、ローソンであるとか、あとはファミリーマートでもやっぱりWi-Fi機能がありますので、そこにいらっしゃる若い日本人とか外国人の方々がそのネット環境で親しんでいるのもありますので、ちょっといろいろな観点でWi-Fiについて検討していただきたいなというふうに思います。

そして、すみません。次なんですけども、広島、呉、宮島との連携ということでございます。

広島広域都市圏発展ビジョンにおきましては、広島広域都市圏における連携中枢都市圏検討会議交通部会というのが設置をされておいて、この中で圏域全体の公共交通の充実強化に連携して取り組むとあるんですけども、ここは江田島市としても、こういった部会に参加して何か議論されているのか、この点について教えていただければなというふうに思います。

○議長（林 久光君） 江郷企画部長。

○企画部長（江郷春行君） 御指摘のとおり、そういった部会がございます。あるんですけども、現状といたしましては特段の動きはなくて、私の知る限り、議論はまだ行われておりません。

以上です。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。せっかくの広域連携でございますので、やはり広島湾の中心に位置する江田島市っていうのはほんとに魅力的な島というふうに、広島市民というか、広島湾周辺の方々も思っちゃると思うんです。その中に海上交通というのが非常にポイントとなってきますので、ぜひ何がしかの機会に、先ほど申し上げた宮島－江田島の航路とか、そういったところも御検討いただければなというふうに思います。

そして、広島、呉、宮島の枠の外というか、連携の中に岩国というのがあるんです。岩国、御存じのとおり錦帯橋空港というのがありまして、東京便が行きと帰りで5便ずつあります。岩国の棧橋というのは、空港のすぐ近くにあります。そこから沖地区は高速艇で30分の距離なんですよ。そういった意味では、いわゆるゲートエアポートを岩国錦帯橋空港とすれば、宮島とか江田島、広島、こういった連携の中で、そこを1つのポイントとして誘致できる可能性もあるんじゃないかなと。以前、何かの会合で、これは田中市長時代でございましたが、岩国市長が江田島に来るときに船をチャーターして御利用になって、沖地区に来たということもありましたですよ、総務部長。ということで、ここも1つ、やっぱり海をメリットというか、海を観光資源として考えて、船旅というのを1つのコンテンツとして見ていくことも大切だと思いますので、ぜひ広域連携の中でも検討していただきたいなというふうに思います。

すみません。次に移ります。

2点目のほうに移らせていただきます。指定管理施設の運営状況でございます。

このたび、ようやく公共交通のいわゆる交通船からプラスの新鮮市場がモニタリングのところになったということでございます。これはほんとに平成28年からお願い申し上げたところが、ようやく一步前進ということで評価させていただきます。

今後の協定の見直しの時期ということでございますが、先般、私、シルバー人材センターに関する文書質問をさせていただいて、その団体が指定管理している3施設、シルバーワークプラザと真道山森林公園、そして竹炭工房の3カ年の収支状況を問わせていただいたところ、答弁書の中で収支のところは御回答いただいております。また、真道山森林公園もシルバー人材センターの努力によりまして、平成26年度以降、かなりの利用率、今、二千五、六百人が毎年利用されているということもそこでわかりました。何が言いたいかと申し上げますと、まだモニタリング制度を導入できない、これからもあと残り8施設、今予定しているということでございますが、例えば決算審査特別委員会等で所管部署のほうで、その施設の収支状況であるとか利用状況というものを資料として御提供いただけないかというお願いでございますが、このことについて御答弁いただきたいと思っております。

○議長（林 久光君） 仁城総務部長。

○総務部長（仁城靖雄君） これ、今のお話は指定管理をしておる施設ということでございますので、もちろん結果についても公表していくということを考えておりますので、それについては御提供できるかと思っております。

以上でございます。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。指定管理施設も今117施設ということで、今、恐らくこれからモニタリングをしていこうとしている8施設というのは、指定管理料をお支払いしている施設ということかと思いますが、確認までに、そういうことでよろしいでしょうか。

○議長（林 久光君） 仁城総務部長。

○総務部長（仁城靖雄君） 指定管理料をお支払いしているのは、7施設でございます。もう1施設がシルバーワークプラザになります。こちらについては指定管理料を払っていないのですけれども、このモニタリングの中に対象としております。

以上でございます。

○議長（林 久光君） 胡子議員。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ほんとに先ほどの観光振興と交通船の問題も、これから今大きく観光産業を育てていきたいという江田島市の強い思いの中でかじを切られた部分であると思えます。ちょっとここで1つお願いがありまして、先般、3月4日に汚染土壌施設の許可が出たわけなんでございますが、やはり今、江田島市民の皆さんから私ども議員にもいろんなところに、観光についても余りマイナスイメージにならないようにと危惧される声が来てます。そういった意味では、せっかく観光にどんどん力入れていこうという中でありますので、ここを何とか江田島市のほうで不安の払拭ということをしていただきたいんですけども、何か御意見いただければと思います。

○議長（林 久光君） 山井市民生活部長。

○市民生活部長（山井法男君） 最近、新聞紙上をにぎわかせています。9月に県のほうに申請がなされ、それから3月に許可がなされました。これから事業がなされるんだろうと思えます。一方で、漁業者の皆さんを中心に、この事業を差しとめるという裁判もなされております。今、市の立場としましては、裁判係争中ですから、この推移を見守るという立場ですけれども、ただ、市民や漁業者の皆さんが不安に思っているというのも我々もひしひしと感じているところです。我々市行政でできる限りのことは、不安払拭というか、ただ漁業者の方は、施設を見に行く気もない、もうとにかくやめてくださいということだけで聞く耳も持ってくれないというところがあるんですけども、そこはできるだけ市として、我々もできる限り両者の接点をつくって、不安を払拭して、それがまた観光や漁業関係の風評被害、そういったものに響かないように、最大限努めてまいりたいと考えております。

○議長（林 久光君） 胡子議員、あと持ち時間3分です。

○14番（胡子雅信君） わかりました。ほんとにこれから江田島市も人口増に向けて、そして総観光客数をどんどん、100万人に向けて目指していこうということでご

ございますので、やっぱりオール江田島市、行政、市民、議会、これが三位一体となって、同じベクトルに向かって、江田島市を押し上げていくようやっていきたいと私自身も思っていますので、ぜひ皆さん一緒に頑張ってみましょう。

ということで、私の一般質問を終わります。

○議長（林 久光君） 以上をもちまして、14番 胡子議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

13時40分まで休憩いたします。

（休憩 13時27分）

（再開 13時40分）

○議長（林 久光君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、6番 平川博之議員。

○6番（平川博之君） 皆様、こんにちは。6番議員、公明党の平川博之でございます。傍聴席の方もほんとに御苦労さまでございます。それでは、通告に従い、質問します。

食育についてでございます。

食育の大切さについて、このような記事がありました。食べるということに関して言えば、欠食や個食、好きなものばかりを食べるなどの偏食は食の乱れをもたらし、子供たちの健全な発育の阻害や学習意欲の低下、そしていらいらし、キレやすい状況などを生み出している。学校等においては、食育として給食の時間を中心にしなが、健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよくするなど取り組んでいます。また、軽視されがちな食の乱れであります。そのことが子供たちの健全な発育を阻害しているともあります。保育園や学校が行っている食育が中心になってくると思いますが、家庭や地域においても食の乱れをなくすために、ともに食育に取り組んでいきたいと思っております。食育は生きる上での基本であり、健全な生活を送る上で大変重要であります。そこで、食育の大切さを確認し、食育の考え方及び食育推進方法、そして全ての人に必要な食育をどう行っていくのか、次の3点を伺います。

1点目、食育の考え方は、子供はもちろんですが、高齢者にも当てはまります。1人で食べることは寂しく、もちろん栄養は必要ですが、その摂取のみとすれば、これも寂しいものであります。改めて食育について、基本的な考えを伺います。

2点目、食育推進として、本市はどのような取り組みを行っているのか。

3点目といたしまして、保育園や学校において、どのように食育を行っているのか。また、給食を通しての食育のあり方についてお伺いします。

以上3点、よろしくお願ひします。

○議長（林 久光君） 答弁を許します。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 平川議員から食育について、3点の御質問をいただきました。順にお答えをさせていただきます。